

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査について

1 結果

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)	平均正答率(%)
嶮山小学校	70.0	48.0	65.0	49.0	55.0
神奈川県	70.0	54.0	64.0	52.0	60.0
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

本年度の本校の 6 年生児童は、調査結果から算数 A において、全国・神奈川県の正答率を上回っていた。国語 A については、全国・神奈川県の正答率と同程度で、国語 B、算数 B、理科については、全国・神奈川県の正答率を下回っていた。

児童質問紙による生活や学習の意識については、算数・理科への関心等と自尊感情については、全国・神奈川県規準と同程度であった。地域・社会への関心等や規範意識、生活・学習習慣については、全国・神奈川県規準を下回っていた。

2 領域別の分析

国語 A の「主として知識」については、4 つの領域「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全てにおいて全国・神奈川県の正答率と同等だった。また、ほとんどの領域において、無解答率は、全国・神奈川県よりも下回っていた。これらのことから、国語 A の「主として知識」においては 4 つの領域に対して、おおむね満足できる状況であるといえる。

国語 B の「主として活用」については、3 つの領域のうち「読むこと」において全国・神奈川県の正答率と同等だった。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」においては、全国・神奈川県の正答率を 6~9 ポイント下回っており、記述式の問題においても、5 ポイント下回っていた。また、「書くこと」において無解答率が、全国・神奈川県よりも上回っていた。これらのことから、国語 B の「主として活用」においては、「読むこと」に対しては、おおむね満足できる状況であるといえるが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に対しては、課題があるといえる。

算数 A の「主として知識」については、4 つの領域のうち「数と計算」、「数量関係」の 2 つにおいて全国・神奈川県の正答率を 5 ポイント以上上回っており、「量と測定」、「図形」においては全国・神奈川県の正答率と同程度か少し上回っていた。また、どの領域においても、無解答率は、全国・神奈川県よりも下回っていた。これらのことから、算数 A の「主として知識」においては、全体的におおむね満足できる状況であるといえる。

算数 B の「主として活用」については、4 つの領域「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の全てにおいて、全国・神奈川県の正答率を下回っていた。また、どの領域においても、無解答率は、全国・神奈川県の回答率と同程度か少し上回っていた。これらのことから、算数 B の「主として活用」においては、4 つの領域に対して、課題があるといえる。

理科については、4 つの区分「物質」、「エネルギー」、「生命」、「地球」の全てにおいて全国・神奈川県の正答率を 2~6 ポイント下回っており、記述式の問題においても、6 ポイント下回っていた。しかし、「分析して考察できるか」を問うものについて、2 つの問題で、3~10 ポイント上回っているものがあつた。また、どの区分においても、無解答率は、全国・神奈川県の回答率と同程度であった。これらのことから、理科においては、4 つの区分に対して、課題があるといえる。

3 今後の指導

国語においては、一人ひとりが考えをもてるよう、例や視点を示しながら指導し、子どもの表現を価値づけていく。そうすることで、自分の考えに自信をもてるようにし、進んで考えを表現できる子の育成を目指したい。

算数においては、式の意味や自分の考えを順序立てて書く指導を意図的に行っていく。そして、様々な考えを共有していく中で、論理的に考えていくことの良さを実感できるようにする。そうすることで、国語と同様に、自分の考えに自信をもてるようにし、進んで考えを表現できる子の育成を目指したい。T・T指導と少人数指導を学習場面に合わせて効果的に行っていき、基礎・基本を徹底するとともに、応用・発展といった個に応じた指導も充実させていきたい。

理科においては、問題解決のプロセスに沿って予想や考察で自分の考えを表現できるように指導していく。そして、予想を確かめるために観察・実験を行うようにし、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。さらに、予想と観察・実験の結果を比べながら考察するようにし、一人ひとりに実感を伴った理解ができるようにしていきたい。